

1月10日（金）

なにわ七福神巡り

25回目の「てくてくウォーキング」は、なにわの七福神巡り。庶民の身近にああって幸運をもたらしてくれるという七柱の福の神が現在のような『七福神』として定着してきたのは江戸時代の中期頃と言われ、宝船に乗った七福神が描かれたり、正月には初詣を兼ねての七福神巡りが盛んにおこなわれたりするようになったようです。享和年間（1801～1803）には、恵比寿・大黒天・毘沙門天・弁財天・布袋尊・福祿寿・寿老人と現在の顔ぶれに落ち着いたそうで、恵比寿神を除いて他の六柱はインドや中国の神様という国際色豊かなエキゾチックなメンバー構成なのだそうです。お天気は良かったものの寒風の中の街歩きとなりました。

てんのうじ観光ボランティアガイド協会から頂いた七福神めぐりコースです





9時45分 JRの玉造駅に集合
玉造商店街を經由して三光神社へ。

① 三光神社

ここには立派な『寿老神』の像がありました。中国の神で、富貴・長寿の神様です。創建は第18代反正天皇の時代、宮司は創建に携わった武内宿禰の末裔で武川氏が代々奉仕されました。武内宿禰は12代景行天皇から16代仁徳天皇まで5代の天皇に仕え、280～360歳ま

で生きたとされる人物でその長寿にあやかって寿老神を祀っています。

真田幸村像

ここは真田丸の出城があった場所の近くでもあり大阪城の抜け道と言われる祠があり、NHK大河ドラマ「真田丸」以来見学の人たちも多く、今でも真田の六文銭の旗印が飾られていました。



② 長久寺

天正17年(1579)、豊臣秀長の武運長久を祈るため、淀殿の命により、片桐且元、野修理之介が奉行となり、大坂城築城の資材で本堂を建立、別名「淀殿の寺」。ここには道士姿の中国の神様『長寿神』が祀られ、人望を受け、延命長寿の神とされています。



③ 法案寺

唯一の女神『弁財天』が祀られており、インドの水神・河の神様。音楽や弁舌能力を授ける神であり、福德施与・知恵財宝の守護神。釈迦の守り本尊とされています。



④ 大乘坊



元天王寺牛崎にあったが、織田信長と大坂本願寺との間で戦われた石山合戦に巻き込まれ焼失、文禄年間（1592年から1596年）に現在地に移転されたそうです。七福神中唯一の「武神」でインドの神様、『毘沙門天』を祀っており、福德施与、融通招福の神様とされています。大乘坊本尊の毘沙門天は日本四大毘沙門天のひとつ。



⑤ 大国主神社



神功皇后が三韓征伐より帰朝し、住吉大社から敷津の浜を航行していると海岸に荒波が打ち寄せており、渚に松を3本植えて、ここより潮が満ちないよう祈願し、その松の下に素盞鳴尊を祀ったのが由緒とされています。

『大国主神』は、日本の農業の神である大国主とインドの大黒天が習合して民間信仰に浸透し、台所の守護神・福德や財宝を与える神となったとされています。



左肩に大きな袋を背負い右手には打ち出の小槌を持ち、2表の米俵の上に立つ姿で、童謡にも歌われる人気者の神様でもあります。

ガイドさんの案内はこれまで、

賑やかな大阪天王寺界限にある福を巡った一日でした。

(2班 広報担当)



大阪七福神

寿司大神

今毛戎神社

日足大國神

大正主神社

星沙天

六角堂

弁財天

法華寺 南坊

福祿寿

長久寺

寿老神

三光神社



市見守

市見守

市見守